

2018年2月8日 東京都青少年問題協議会 専門部会（若者支援部会）

ひきこもりの理解と支援

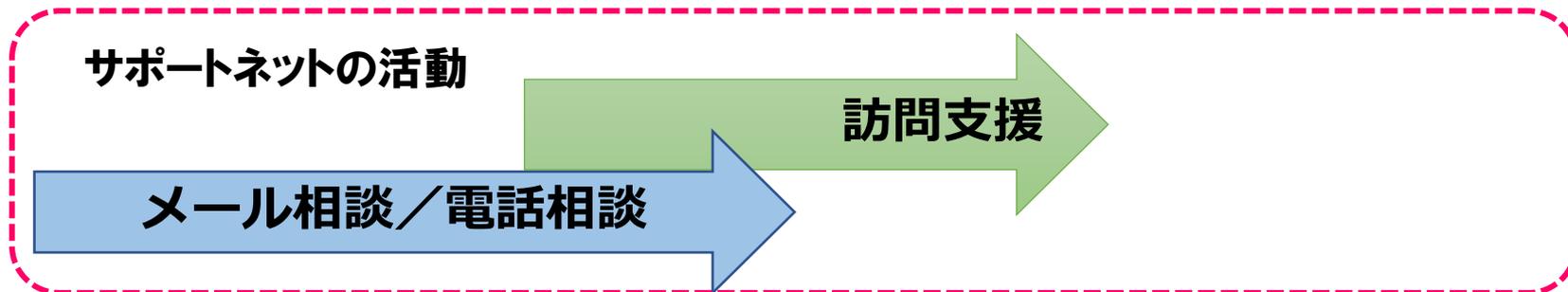
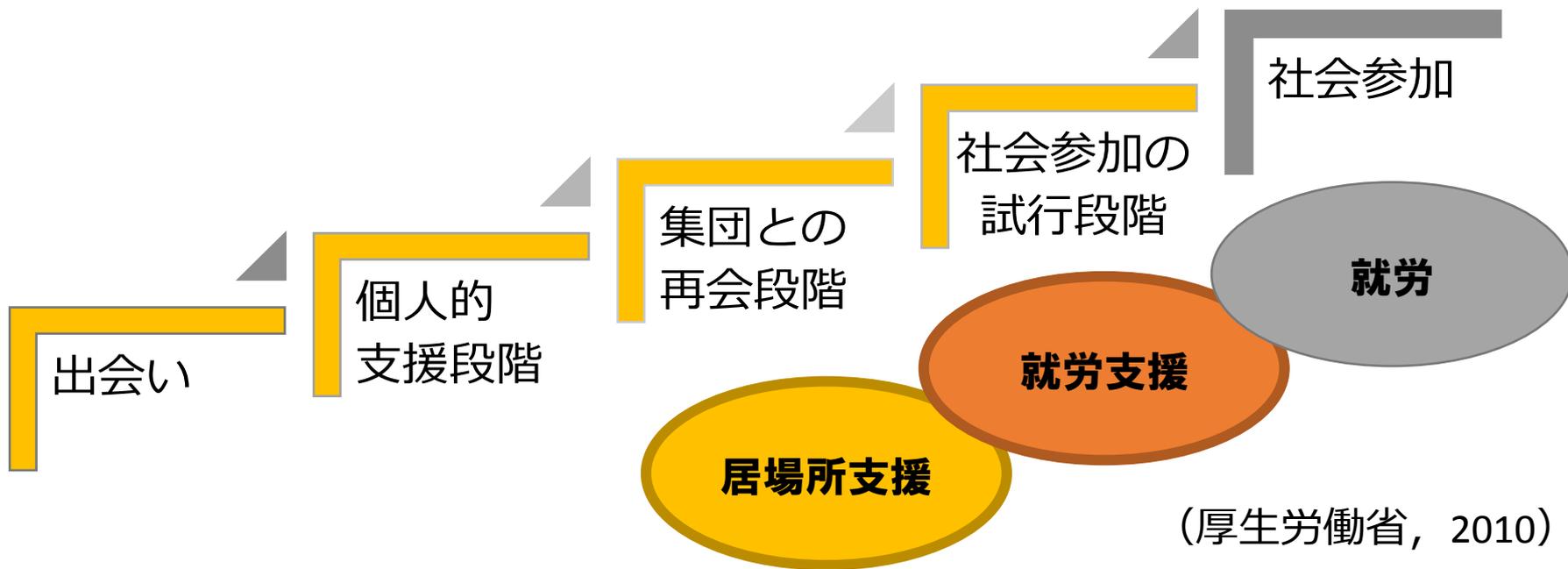
東京都ひきこもりサポートネット監修者
お茶の水女子大学 准教授 青木 紀久代

本日の発表内容

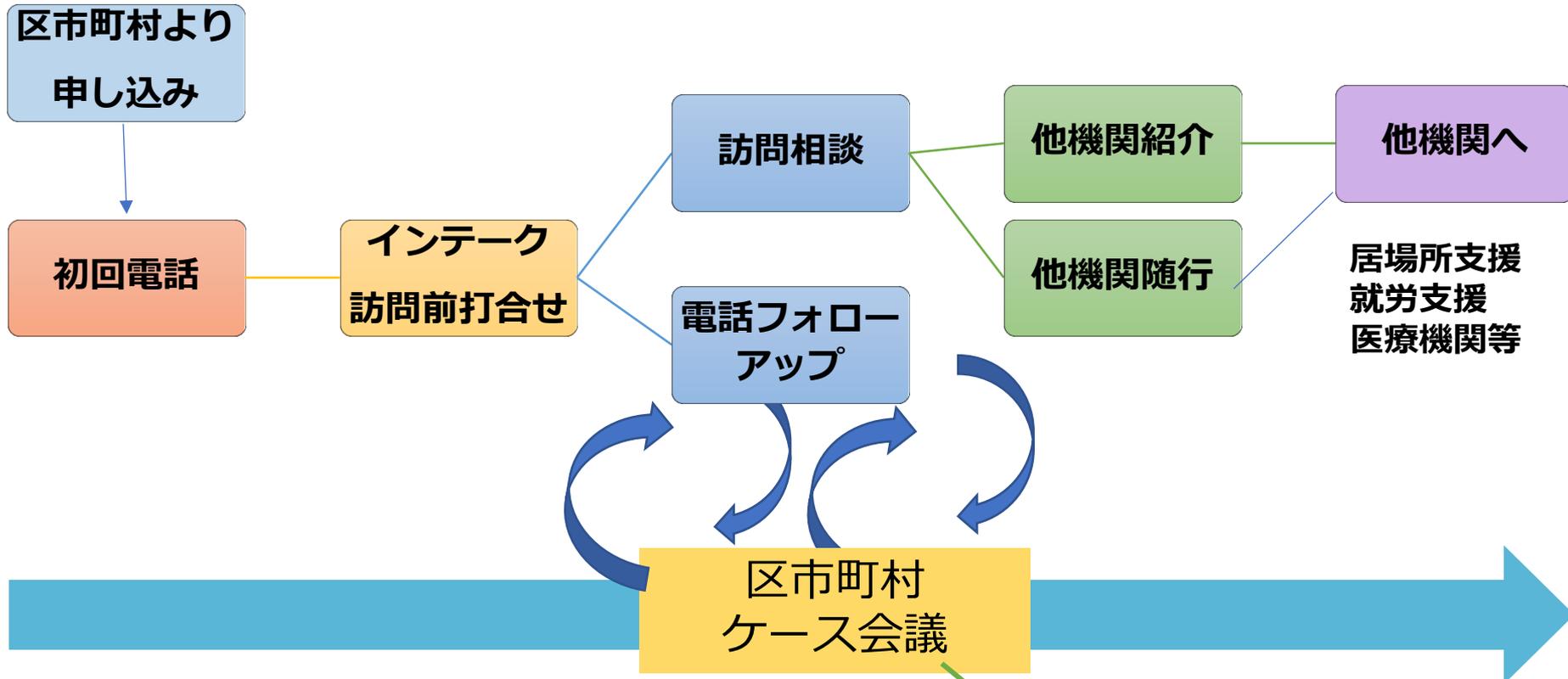
- 1 東京都ひきこもりサポートネットの活動
- 2 ひきこもり当事者の特徴
- 3 訪問支援のケースから
 - ケース1：相談につながらず長期化した事例
 - ケース2：早期に相談につながった事例
 - ケース3：相談機関のミスマッチがあった事例
- 4 相談から見えてきたこと

東京都ひきこもりサポートネットの活動

東京都ひきこもりサポートネットの活動



訪問支援の流れ

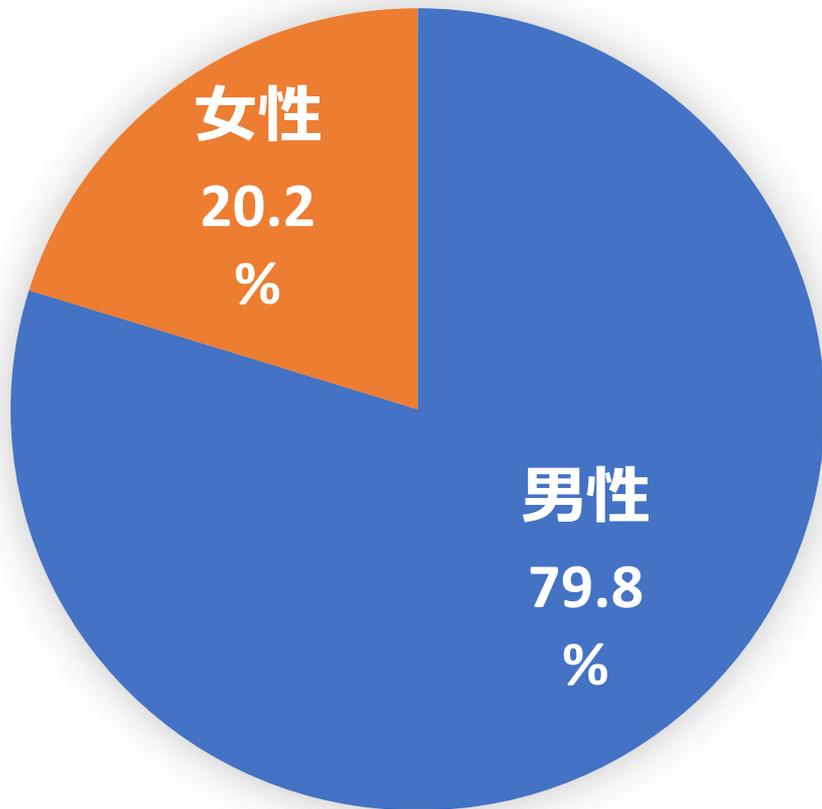


目的： 地域資源の把握と地域資源に繋げる
H28年度より 12自治体 15ケース 17回開催

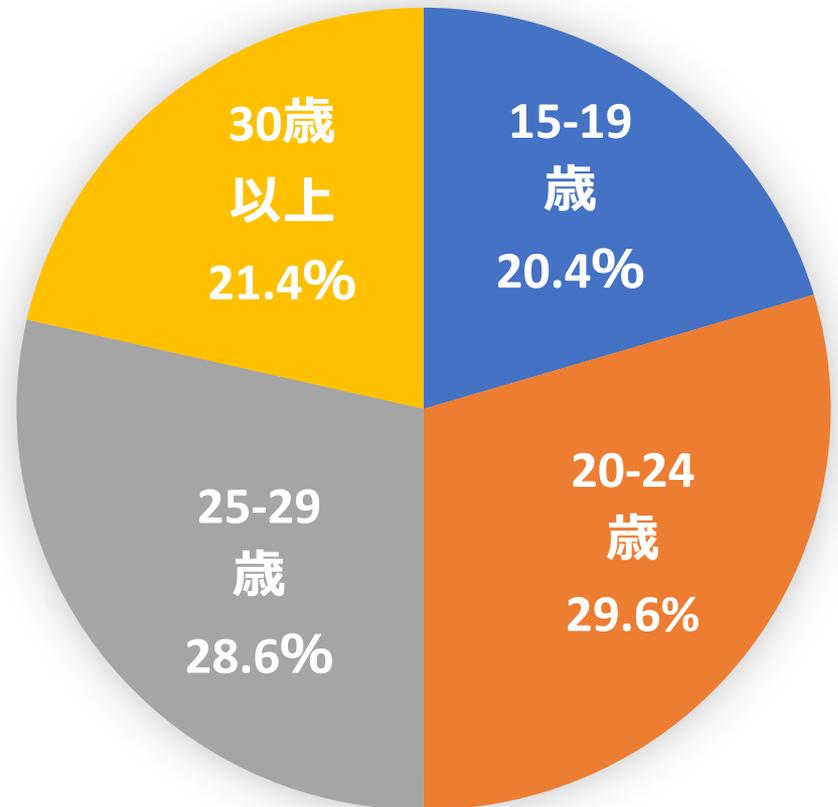
ひきこもり当事者の特徴 (訪問支援から)

ひきこもり当事者の特徴①

・性別

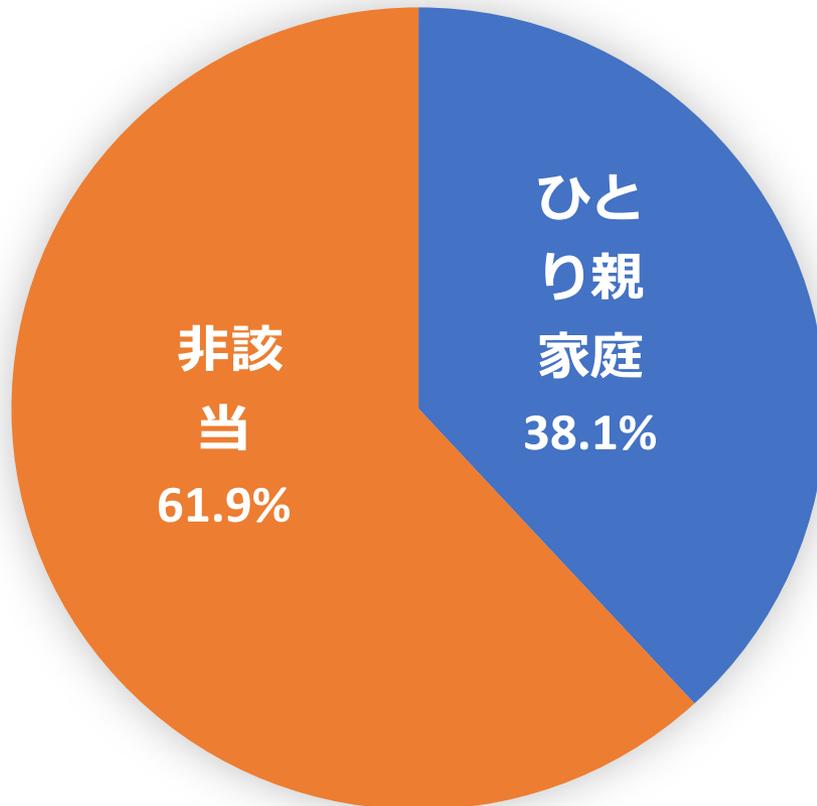


・年齢

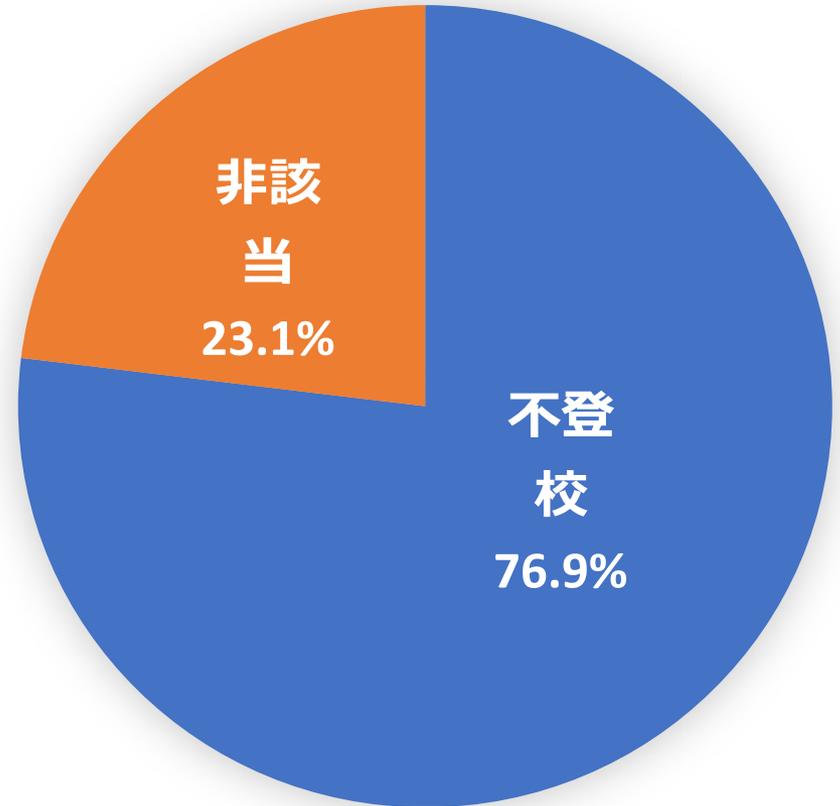


ひきこもり当事者の特徴②

・ひとり親家庭の割合



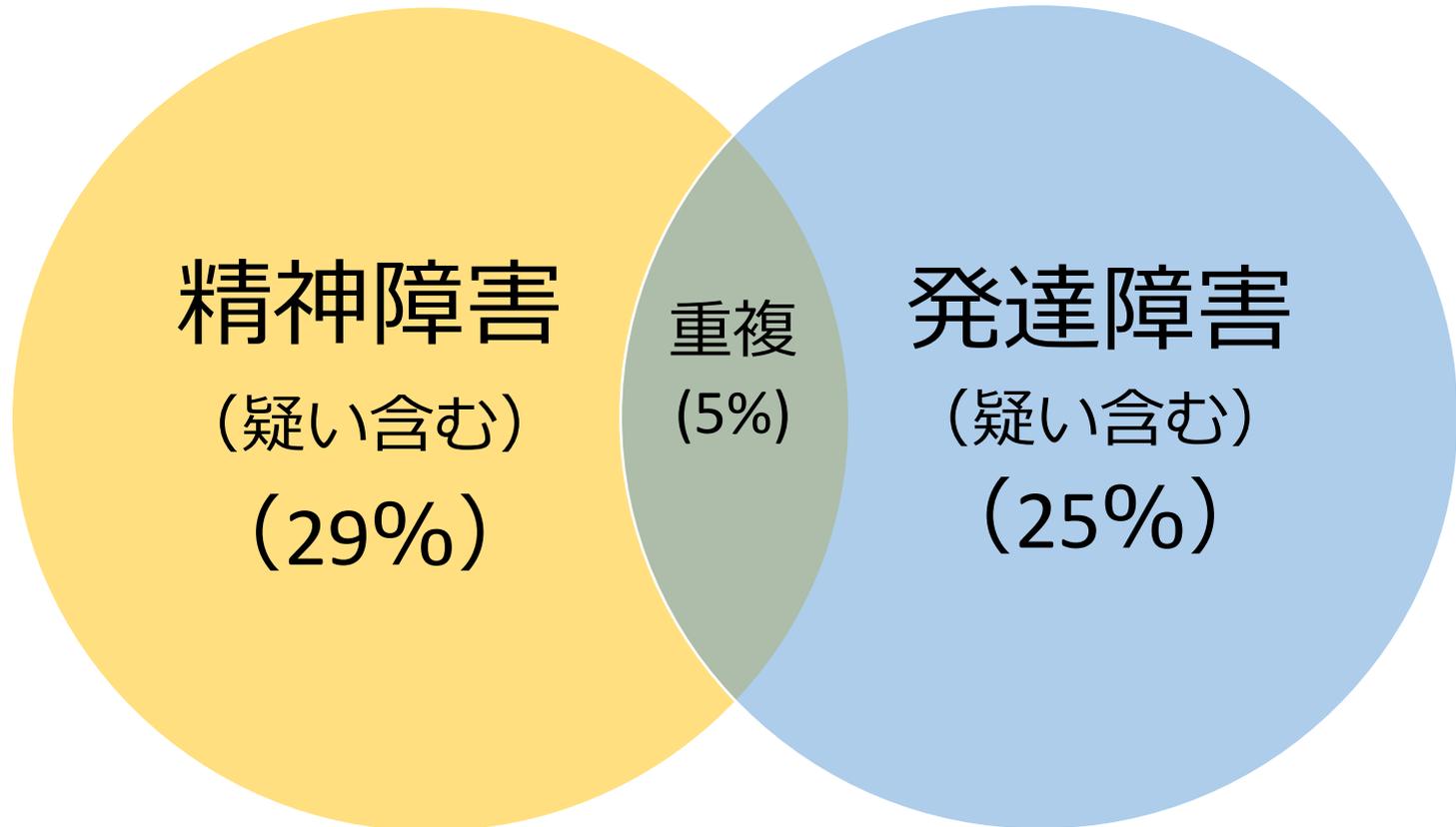
・不登校



ひきこもり当事者の特徴③

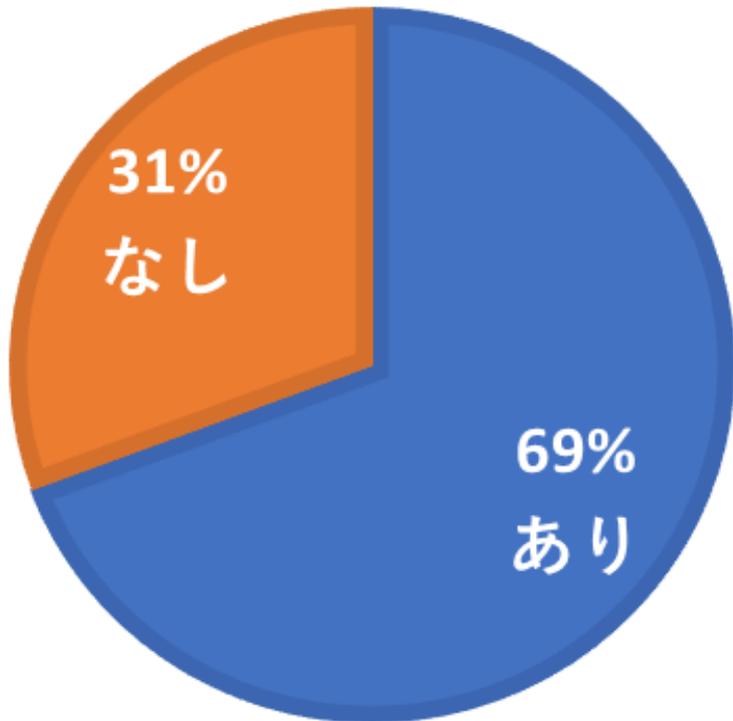
訪問相談を行った事例から

精神障害・発達障害の割合

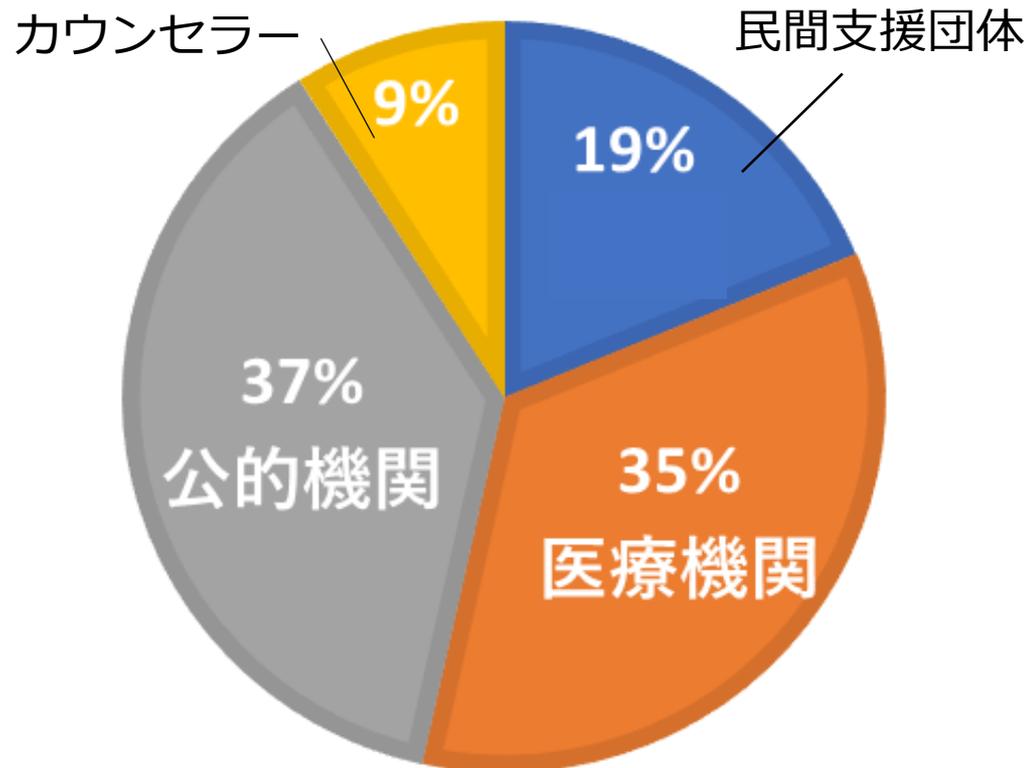


訪問支援申込前の相談歴

・過去の相談歴



・過去の相談先（重複あり）



訪問支援申込のきっかけ

- ・ 広報紙・講演会等によって知った
- ・ 家族・親戚・知人から勧められた
- ・ 第三者の介入が必要だと感じた
- ・ 年齢から「今動かないとだめだ」と思った
- ・ その他
(家族の死、家業の廃業、本人の暴力等)

訪問支援のケースから

ひきこもりサポートネットの支援から見えてきたこと

<ひきこもりの長期化>

- ・ 長期化する環境要因・支援につながったきっかけ
家族関係、相談意欲、地域資源の有無、
支援機関の情報 等

<本人や家族の状況に応じた支援>

- ・ 不登校経験がある場合
⇒ 居場所支援から就労支援につなげることが有効
- ・ 発達障害等の問題を抱えている場合
⇒ 関係機関が連携した支援が必要